

番号	4		事業名	水源地域等保安林整備(奥地保安林保全緊急対策)		市町村名	佐久市		路河川名	利根川流域 南牧川支流 馬坂川		箇所名(ふりがな)	広川原(ひろがわら)			
事業計画時の課題・背景及び事業経緯	当該地域は、利根川水系に属している。地形は関東平野から急激に標高が上昇することから、霧が発生しやすく、隣接する佐久地域とは異なり降水量が多い。また地形が急峻であることから、山腹崩壊も発生しやすくしばしば濁流となり生息している魚類に対しても悪影響をおよぼしている。このため古くから治山堰堤が施工されている区域である。これらのことから、水源かん養機能を高度に発揮するとともに、土砂流出防止機能を発揮する森林を造成する必要がある。												②事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化	事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化(A:環境がよくなった B:大きな影響なし C:影響が大きい)	評価	B
	豪雨時に溪流の浸食が生じ、土石流となって下流道路等保全対象に被害が生じたことから、谷止工を施工して渓床勾配を緩和して浸食を防止する。 奥地であることから、手入れ不足となっている荒廃森林を適正な立木密度とすることにより林内照度を高め、林床植生を回復させ水源かん養、防災機能等を維持向上させる。												③施設の維持管理状況	施設の維持管理状況(A:地域の人たちの参加あり B:適切 C:やや不十分 D:不適切)	評価	B
事業概要	当初工期	H19~H21	費用対効果(当初時)	10.2	事業費(千円)	財源内訳(千円)				④地域住民等の評価	地域住民等の評価(A:評価が高い B:中程度の評価 C:評価が低い)		評価	B		
	最終工期	H19~H22	費用対効果(評価時)	3.0	上段:当初/下段:最終	国庫	その他	県債	一般財源		地元区、森林所有者からは山腹崩壊、土砂流出等の災害防止、森林整備の必要性、重要性は認識されており、当該事業終了後の別の治山事業実施の際にも協力的に対応をいただいている。					
	当初計画内容(主な工種)	谷止工4個、本数調整伐180ha、枝落し10ha、除伐10ha			105,000	52,500	0	47,250	5,250		事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況(A:貢献度が高い B:貢献している C:特になし)		評価		A	
	最終事業実績(主な工種)	谷止工8個、本数調整伐110ha			182,600	91,300	0	82,170	9,130		広川原区は利根川水系であるが、行政連絡、郵便物は当地区内にある唯一の道路である県道下仁田臼田線を通行して配達される。安全な通行が図られることで、情報伝達、物流の安定にも寄与している。 当事業地は「妙義荒船佐久高原国定公園」の南端であり山地荒廃の抑止は景観維持に寄与する。					
事業期間の延長、短縮理由と分析	平成19年9月に台風災害が発生した。これに対応するよう施設整備を増やす必要が生じたことから事業量に応じ実施期間を延長した。												⑤事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況	事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況(A:貢献度が高い B:貢献している C:特になし)	評価	A
事業費(予算)の増加、縮減理由と分析	平成19年9月に発生した台風災害により新たに荒廃が生じた溪流への対策として、谷止工の設置計画を4個から8個に増やし、土砂流出防止を図った。これにより施設整備の事業費が増加した。森林整備については森林の詳細調査にともない整備内容を見直した結果、事業量が縮小した。												改善措置の必要性	改善措置の必要性(現在)	現在のところ改善措置の必要性は認められない。	
①事業効果の発現状況	事業効果の発現状況(A:目的を超えた達成 B:達成した C:概ね達成 D:達成したとはいえない)										評価	B				
	直接的効果(定量的・定性的)	対策工事に実施により、溪流に堆積していた大量の不安定土砂(約1000m3)が安定し、渓床や渓岸斜面が固定されたため、土石流の発生が抑止された。 森林整備により、下層植生が増え、降雨時における表土の流出が抑制されている。										今後の取り組み及び同種事業への活用と課題	当地域は地形が急峻であるうえ、地質も脆弱なことから、効果的な施設配置を検討し継続的に事業を実施していく必要がある。 また、森林整備については、当地区内の林内路網密度が低いため、未整備の森林もあるので、保安林改良事業等を導入し、整備を実施している。 平成25~26年度に、長野県内の民有林全域で航空レーザー測量を実施した。崩壊跡地、地すべり地形などの山地災害危険度の高い箇所や、既存治山施設の位置、土砂堆積状況などが把握可能となるため、測量結果を解析し、災害に強い森林づくりを進める。			
	間接的効果(定量的・定性的)	事業の実施により、溪流から道路への土砂流出が抑制されたことから、通行止めとなることが少なくなったほか、集落への土石流の危険が減少し、地域の安全・安心な生活環境の保全や、流域の自然環境の維持向上に寄与している。										部意見	荒廃溪流の復旧や森林整備により、土砂災害防止、渓岸侵食の防止及び森林の環境保全機能の維持増進が図られ、事業の目的を達成している。			
											行政改革課意見	荒廃溪流等が安定し、一定の効果が認められる。				